

心と心、笑顔のリレー。



TAKE FREE
VOL. 01
2007年
12月発刊
ご自由にお持ちください

院長インタビュー

地域医療の中での ブランド創生

病院職員一人一人も意識改革をし、
より良い医療の提供を!

特集

ある研修医の一日



INFORMATION

脳卒中急性期医療の
先駆的な取り組み **脳卒中センター**

SAISEIKAI TOPICS

看護師ユニフォーム 今年10月よりイメージチェンジ
広報誌のタイトルは、「たすき」に決定!!

今号の表紙

なでしこ保育園園児の作品
どんぐりや落ち葉など、自然素材
で作ったクリスマスリース。かわ
いみんなの力作です。



社会福祉法人済生会支部
富山県済生会

富山県済生会富山病院
<http://www.saiseikai-toyama.jp/>

〒931-8533 富山市橋本33番1
TEL 076(437)1111 FAX 076(437)1122
地域医療推進室
TEL 076(437)1120 FAX 076(437)1131





院長インタビュー

地域医療の中での ブランド創生

病院職員一人一人も意識改革をし、
より良い医療の提供を!

富山県済生会富山病院
院長 利波紀久

「地域連携だより」の刷新を記念して、利波院長にお答えいただいたQ&A。
出身地である富山に対する想い、これからの抱負、将来の展望などをじっくり
語っていただきました。

Q 赴任されて2年目に入り
ましたが、今までの感想
や、おこなってきたいこと
などをお話してください

**富山の人はよく働く
外来が忙しい**

私は富山で生まれ、高校まで
過ごしましたが、その後は
富山を離れていました。赴任
して感じたことは「富山の人は
よく働くな」と思いました。
た。県民性なんでしょうが、

過重労働に耐えて、救急、輪
番（富山市の4病院持ち回りの
2次救急当番）と職員皆さん
よく働いていると思います。
また、外来が忙しすぎると
思っているんです。入院患者
さんも抱え、救急、輪番もこ
なし、非常に負担になってい
るはず。他の診療所（開業
医）の先生方と同じような診
察で外来を忙しくしても、地

域医療連携（病院と地元の診
療所が連携し、共同して地域
医療を支える）という考えか
らは良くないことと思う。

やはり医療の役割分担が大
事と思う。今後、外来患者さ
んの数をなるべく減らしてい
く方針を、患者さんに理解し
て欲しいと思っています。

**患者さんに不安のない
地域医療連携の
仕組みを作る**

患者さんを診療所から当院
へ紹介してもらって、また診
療所へ返す「逆紹介」を進め
るわけですが、それだけじゃ
不十分で、患者さんがなぜ診
療所の方へ足が向かないかと
いうと、やっぱり病院から切
り離されてしまうという不安
があるわけですね。だから
定期的に、病院で検査などし
て診ていくという再紹介のシ



ステムも作っていかないとい
けないなど思っています。地域
で連携して患者さんを診るシ
ステムですね。そうすると患
者さんも安心だから、普段は
診療所の先生に診てもらおう
うになると思うのです。

さらに、栄養管理、口腔ケ
ア、排泄、褥創など、患者さ
んを総合的にケアしていかな
ければならない。これは医師
だけではなく、看護師をはじめ
コメディカルみんなが総合
的に関わらなければならない。

Special Interview



病院も職員個人も ブランドの創生へ

理想的には病院でやっているチーム医療を、地域まで進めて行かなければならないと思っています。

当院も総合病院ですが、他の大きな病院と競合しても意味が無いので、何か特徴を打ち出したいと思い、最新鋭のMRI、内視鏡、血管撮影装

置などの医療機器の更新を行いました。さらに、新しい医療制度である包括的診療報酬制度（DPC）への準備もやってきました。

私はブランド創生ということとを以前から言ってきましたが、それは診療の部門―4月からの脳卒中超急性期集中治療室（SCU）の開設など―だけでなく、職員個人個人のブランド創生という意味もあるわけで、病院の中長期事業計画にもその考えを入れ、実行してきました。

質の高い医療を患者さんに提供する時は、我々職員も勉強していくことが非常に大事なのです。働く人が働き甲斐がないと良い医療を提供できないですね。勉強していこうという意欲がわくシステムを作っていきたい。勉強や研修にもっと病院は投資していかなければという気持ちが強いですね。いくらでもアカデミック（学術的）な雰囲気は作れるだろうと思っています。学会で発表するというような雰囲気をもっと作りたいなど。

充実した医療の提供と共にアカデミックな雰囲気をかもし出す病院にしたいと思っています。ひとりの優秀な人を呼んでくるよりも、病院全体が能力アップする方がはるかに大切ですよ。病院の活力を高めるには職員の数も増やし、質も高めなきゃならんと。両方重要ですよ。

Q 最後に今後の展望を教えてください

DPCへの参加、電子カルテ導入、看護職員を増やし、質を高め、より患者さんへ手厚い看護体系にしたい。診療がもっとも大事なんだけれど、夢のある研究もできればと思っています。

当院でもQCC（Quality Control/製造現場における品質管理の手法を医療サービスと質の向上へ応用する）活動を始めます。QCCには何か物事を良くしようという目的があります。職員個人の能力開発もあるんですよ。皆さんにはいろんな能力があるはず。皆さんの潜在能力を引き出したいですね。

最後に、もっと皆さんと意見交換したいと思う。皆さんの考えも私に伝えて欲しいと思っています。

院長先生、本日はありがとうございました



PROFILE

院長先生プロフィール

- 富山市四方生まれ 67歳
- 〈専門〉放射線・核医学
- 〈富山の思い出〉八重津浜での海水浴や伝馬船での釣り
- 〈趣味〉麻雀、ドライブ
- 〈嗜好〉日本酒（今は控えている）

4つの特色で急性期の
脳卒中患者さんに
最善の医療を提供する。

昭和52年に設置された「脳卒中センター」は、今年4月に新しく生まれ変わりました。これまでの体験を踏まえ、その主要な役割を急性期の治療に置き、スタッフや機器、そして体制を整備しました。「脳卒中センター」の新たな取り組みをご紹介します。

1 24時間体制で急性期脳卒中を治療

症状の出現から3時間、治療の有無と治療内容が
その後の回復に大きく影響します！

- 脳卒中の専門医師が24時間院内に常駐しています。
- 医療機関や救急隊と結ぶホットラインを設置しています。
- CT、MR、血管造影装置などを、24時間稼働しています。



2 指導医がおこなう脳血管内治療

脳卒中の患者さんを最善の方法で治療するためには、
脳血管内治療を欠かすことはできません！

- 全国でも数少ない脳血管内治療の指導医が、脳動脈瘤や頸動脈の狭窄病変に対して積極的に治療を行っています。



3 県内で唯一の脳卒中ケアユニットでの治療

多職種で構成される脳卒中専門チーム医療は、
患者さんの回復を助けることが知られています！

- 本年5月に厚生労働省の定めた厳しい施設基準を満たし、
県内で唯一の脳卒中ケアユニットを開設しました。



4 急性期からのリハビリの提供と 回復期リハビリ病院との連携強化

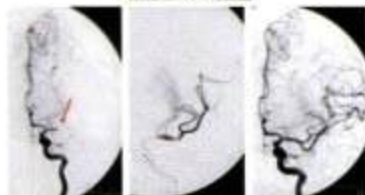
後遺症障害を最小限に抑え、残存した機能を最大限に活用するためには、
急性期の早い時期からリハビリを開始し、
回復期リハビリに切れ目なく引き継ぐ事が大切です！

- 発症後早期から、ベッドサイドで廃用症候群の予防を中心にリハビリを行っています。
- 回復期リハビリ病院との連携強化のため、富山医療圏の3病院（富山県高志リハビリテーション病院、室谷病院、八尾総合病院）と毎月の勉強会を開催しています。

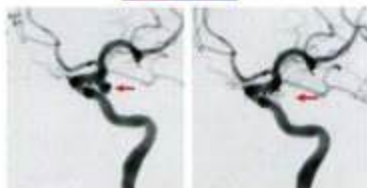
指導医がおこなう脳血管内治療



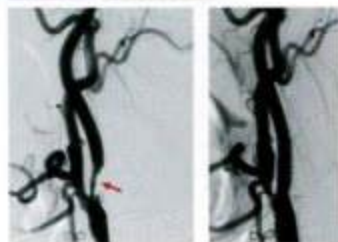
選択的
血栓溶解
療法



脳動脈瘤
塞栓術



頸動脈
ステント
留置術



SAISEIKAI TOPICS

済生会トピックス

看護師ユニフォーム 今年10月よりイメージチェンジ



看護師のユニフォームは白色という固定観念がありますが、あえて他にはあまりない明るいグレーで、パンツスーツタイプ、と活動しやすいものにイメージチェンジしました。

また、看護師のネームベルトの赤色との調和、襟元と袖口に白を取り入れ、済生会富山病院の象徴である「なでこバッチ（赤色）」を付け、全体のバランスを考え落ち着いたもの、暖かくやさしいイメージを強調しました。

ユニフォーム一新を機に、気持ちを新たに、済生会富山病院看護部の理念「すべての患者さまとその家族の皆さまに対して、患者さま中心の専門職看護を提供します」を実践して参ります。



広報誌のタイトルは、 「たすき」に決定!!



今回、広報誌のリニューアルに伴い、院内でそのタイトルを募集しました。たくさんの応募の中から、審査の結果、リハビリテーション科言語聴覚士 山本晃彦さんの「たすき」に決定しました。みなさん、どうぞ覚えてくださいね。

〈山本さんのコメント〉

採用が決定した時、正直言って驚きました。ありがとうございます。地域医療や広報誌の役割を考えた時に、患者さんを中心に病院間や施設間の連携、その中の人と人の繋がりがや信頼関係が重要ではないかと思いました。そこで、リレーで使われる「たすき」のように、人と人が一つの目標に向かって共に助け合い、進んでいくことをイメージして「たすき」とタイトルをつけました。





研修医
滝 知彦 先生
プロフィール

《出身》..... 富山市
《年齢》..... 25歳
《趣味》..... バドミントン
《好きな食べ物》..... 桃
《研修中一番うれしかったこと》
患者さんが元気になられて笑顔で退院されるのを見る時、こちらも明るい気持ちになります
《つらかったこと》
毎日が充実しており、つらいことなんてありません!!!
《医師をめざした理由》
子供の頃、病気で苦しんでいる人を助けたい笑顔になってもらいたいと思ったから

平成16年4月から「新医師臨床研修制度」が導入され、新人医師の臨床研修制度が義務化されました。新しい制度では専門分野だけでなく、内科・外科・救急部門など様々な臨床分野での研修が必要となります。
当院においても、本年4月より滝知彦医師が研修医として、勤務しています。6ヶ月間の内科研修を終え、現在外科にて研修中です。
そんな滝研修医の一日に密着しました。



7:00
▼
8:00



病棟回診
一人ひとり、しっかりと確認しながら患者さんの様子を見て回ります。

8:00
▼
9:00



病棟業務
回診の準備や採血の結果などをチェックします。

9:00
▼
12:00



チーム回診(症例検討)
チームで回診し、前日からの経過やその日の朝の問題点をディスカッションします。

18:00
▼
20:00



病棟業務
田近副院長の指導の下、患者さんの検査結果のチェックなどを行います。

12:30
▼
18:00



手術
何度立ち会ってもやはり緊張。見ることも聞くことも全てを吸収するべく、とにかく一生懸命です。たくさんの方が学べる貴重な現場。

12:00
▼
12:30



昼食
昼食。ホッと一息つける時間です。短い時間ですが、リラックスして次の研修に備えます。

20:00
▼
21:00



病棟回診
患者さんとのコミュニケーションも大切しながら、変わったことがないか確認していきます。



おつかれさまでした。
明日も頑張るぞ!!





島崎クリニック
院長 島崎邦彦

「私のメタボリック克服へのチャレンジ」

8月のある暑い日に、友人とゴルフをしました。久しぶりに歩いたのラウンドでしたが、残り3ホールほどでダウンしてしまいました。その日以来、一念発起しダイエットに挑戦することになりました。腹囲の他は、特にメタボリックシンドロームの所見はなかったのですが、最近の写真や鏡に映る己の姿に驚愕していた矢先でした。来年度から定期健診、保健指導が実施されます。0.1トン近くの体重で、突き出た腹をユサユサさせながらメタボリックシンドロームの保健指導をしても説得力がありません。

私の持論は、「ダイエットに近道なし。食事療法、運動療法あるのみ。」です。

以来、ごはんは茶碗の底が見えるくらい、その分野菜サラダは皿に大盛り、パンは今までの半分の薄さになりました。食事を変えてから、もつと肉とか魚のごちそうが食べたくなると思っていました。意外にも甘いお菓子が食べたくなりました。慢性的な低血糖になっているのかもしれない。

木曜日はプールに行つてスイミング（というよりほとんどウォー



キング)、その他の日は不審者に間違われないうつ犬をお供に散歩をしています。しかし、散歩に付き合ってくれていた愛犬（シユガー11歳）は、10月24日に残念ながら突然亡くなってしまいました（合掌）。その甲斐あって、1カ月で8kg体重を落としました。しかしその後なかなか思うように落ちません（その後の1カ月で2kg減）。これが停滞期なのかもしれません。皮下脂肪は落ちましたが、たるんだ皮膚が気になります。そろそろゆるめる時かもしれません。

まあ、ともかくにも立ち居振る舞いが楽になりました（足を床につけたまま靴下をはけるようになりました）。惜しくてとってあった昔のスーツもズボンも入るようになりました。おかげで平素、優柔不断さを責められていた妻からも、意志の強さを見直されました。ただ体が切れすぎて、ゴルフシヨットがやたらフックするようになりました。もともと下手なんです。

これから雪が降るとゴルフもできなくなり、散歩もプール通いも億劫になります。

来年の春、醜い姿に戻らないようがんばります。

CLINIC DATA

内科・外科・専門科
島崎クリニック

〒931-8435 富山市小西116-3
TEL076-452-1551 FAX076-452-1552
診療時間 9:00~12:30/14:30~18:00
(土曜)9:00~12:30/14:00~17:00
休診日 日曜・祝日・木曜午後



メタボリック シンドローム (内臓脂肪症候群) 健診

来春スタート!



特定健診・保健指導の実施基準



無理なく内臓脂肪を減らすために —運動と食事でバランスよく—



運動の消費エネルギー量	料理のエネルギー量	アルコールのエネルギー量	菓子類のエネルギー量
普通歩行 10分間 約25kcal 速歩 10分間 約40kcal 水泳 10分間 約160kcal 階段昇降 10分間 約80kcal	かつ丼 860kcal 天麩揚げうどん 630kcal ラーメン 600kcal ざるそば 400kcal 炒飯 700kcal ごはん(1膳) 160kcal	ビール 1缶(350ml) 140kcal ビール 大1本(633ml) 253kcal 日本酒 1合(180ml) 193kcal 焼酎 1合(180ml) 256kcal ウイスキー シングル1杯(30ml) 71kcal	まんじゅう 1個(40g) 90kcal カステラ 1切(50g) 160kcal ジャムパン 1個(60g) 290kcal クッキー 3枚(50g) 220kcal プリン 1個(110g) 170kcal ショートケーキ 1個(150g) 390kcal アイスクリーム 1個(155g) 400kcal

お菓子などの間食やアルコール量を控え、食事では野菜や海藻を多く採る様にし、来春から始まる「特定健診・保健指導」の前に自分の健康状態に気付いてみませんか?